

8
号外

むつ版

We Believe

ミッション! パッション! ハイテンション!



薬研渓流

夏はカッパと川遊び

実行委員長
畠山

シャワーウォーク

シャワーウォークを終えて

青少年育成委員会委員長 畠山 善光

8月8日(土) 8月10日(祝・月) 薬研渓流シャワーウォークを開催致しました。9日(日)は天候・雷注意報により残念ながら延期・中止とさせて頂きましたが、両日合わせて小中高生58名にご参加いただきました。参加した子供たちは薬研渓流の雄大な自然の中でシャワーウォークを体験し、ひと夏の思い出に残る、そして子供たちの笑顔あふれる事業となりました。大きな事故・ケガ等もなく無事開催できた事は、ご協力・ご支援頂きました皆様のお力添えのおかげでございます。大変ありがとうございました。

今回開催したシャワーウォークですが、年初より決まっていた事業ではなく、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた事業が開催できなくなり、代替案を悩んでいたところに、高屋理事長より(一社)しもきたTABIあしすと様と共催で事業をやらなにかとの打診がありました。6月中旬にお話を頂き、開催予定が8月と事業構築期間が1ヵ月半余りの怒涛の日々の始まりでした。下見のため渓流に入水した際には、防水ケースに入れたスマホが水没し、防水バックまで浸水するというまさかの事態。運動不足のために途中で足がつるというハプニングもあり、川の危険性を身をもって実感し、万全の状態では本番に臨めるよう準備しなければならぬ。といい教訓になりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により混沌とした社会の中で、事業開催も危ぶまれましたが、「コロナ禍の中で、できる事業を行うのが青年会議所だ」との意見には相当励まされました。

参加した小学生の保護者からは大人版シャワーウォークをぜひ開催してほしいと要望があったので、(一社)しもきたTABIあしすとに開催を期待したいと思います。

最後に計画段階から携わって頂いた委員会の皆様、当日スタッフとしてご協力頂いた皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。わいどの夏はまだ終わらねえ!





遠隔サポートと副理事長として

副理事長 尾崎 幸

私は、青少年育成事業が大好きです。青少年育成の委員長や、入会してからの青少年育成事業はすべて参加してきました。地域の子供たちにとって何ができるのか、事業をケガやトラブルなく終えることができるか、体力的にも大変な部分はありましたが、どんな時も自身を楽しんでおりましてので、今回シャワーウォークも楽しみにしておりました。しかし、当日のみならず、準備段階でもメンバーの皆さんと同じ場所準備することはできませんでした。理由は、私が遠隔地に住んでいる為です。新型コロナウイルスでむつに返ることができませんでした。開催2週間前に、理事長・専務・委員長と相談し、遠隔でサポートさせていただくことになりました。副理事長としてこれいいのか悩みましたが、参加者の感染リスクを最も優先することになりました。それからは、微力ながら遠隔で委員会に参加させていただきました。その中でも、理事長・専務・委員長には副理事長として発言させていただける機会を多く頂き本当に感じしております。皆様本当にお疲れ様でした。



心にかかる虹色の橋

青少年育成委員会

藤井 翔太（ニジマス夫）



水中ではその体の特製を活かし、忍者のように身を隠しながらエサを狙う。2kgを超える大物になると、大人の力でも手で押さえつけることが困難になるパワーファイター。俊敏な動きに翻弄され、苦勞の末水中から引つ張り出し、ようやく見事な虹色に輝く美しい体を見ることができると、それが、ニジマスである。

このニジマスが、コロナ禍における憔悴しきった大人や子供の心に、その名前のごとく虹をかけた。

「どんな手段を使っても獲っていい」

そんな強気なルールのもと開放されたニジマスランド。荒川静香選手のイナバウアーのように曲がる釣り竿と、明らかに虫取り網のようなタモのみ用意され、獲る手段はまず手掴みしかない。

やれ大人は言う。「ほらそこさいだ、ガツとつかめ」

やれ子供は言う。「お父さん獲って」

ニジマスは、子供の変わりに入水した大人をあざ笑うかのように川の中をすべり泳ぐ。色々な自粛から解放され、心が解き放たれた瞬間だったのだ。

受付や出店付近の出来事や思い出など

青少年育成委員会 伏見 紀生

薬研溪流シャワーウォーク1日目総合指揮という事で、陸上側をメインに対応させて頂きました。朝から好天で、時間に合わせ参加者が順を追って来ていました。参加者の表情は、不安と期待の中で受付しておりました。事務局とボランティアの人が児童の検温、消毒、承諾書の確認をスムーズに行っておりまして、受付が終わった参加者は指示にしがたがって、更衣室にて着替えをして、わくわくと待っていました。ウェットスーツの前後がわからず、着直した場面が多々ありました。2日目の延期。3日間は仕事の為参加できず。2店舗出店して頂き、カップアイスとかき氷。シャワーウォーク終了後の売れ行きは良かったと思います。

オブザーバーとして参加して頂きました、谷川さんはニジマスの捌き焼き係。吉田さんはニジマス管理係と、2名共終始楽しそうにしていたのが印象に残っています。

会議所の人とボランティアの方々のお陰で、陸上側はスムーズにできたと思います。





共催として

(一社) しもきたTABIあしすと

美濃 英武

まずは共催として多大なる御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。1ヶ月半というタイトな準備期間にも関わらず、イベントとして成功を納めることができましたのも、ひとえに高屋理事長、島山委員長をはじめとする青年会議所の皆様や、関係各位の御支援あつてのことと改めて感謝いたしております。

今回の事業は、弊社の新しい商品開発という目的と、むつ青年会議所様における「地域の次世代を担う青少年育成」という基本方針の共通項を深掘りしたことで、全く新しいアクティビティの企画・実施に繋がったものであり、私自身、今後の仕事に活きる、大きな気づきの機会となりました。

しかしながら、これはゴールではなく、持続可能な取組みとして地域に根付かせるためのスタートであると捉えております。私どもといたしましても来年度へ向けたブラッシュアップに努めてまいりますので、引き続き御指導賜りますようお願い申し上げます。



共催として

(二社) しもきたTABIあしすと

大下 彩也香

まずは、一般社団法人むつ青年会議所の皆様に心より感謝申し上げます。当イベントの企画運営に御尽力頂き、事故や怪我無く初開催を成功させて頂いたこと、本当にありがとうございます。参加した子供達が故郷での思い出を振り返った時、下北の土地の魅力や人の魅力をたくさん感じられる思い出の一つになったのではないかと思います。

下北のダイナミックな自然には驚かされることが多く、そんな下北の自然を楽しめるイベントを新たに創れた事を嬉しく感じています。新型の感染症が世界的に流行しているという誰も経験した事が無い状況の中、リスクについて考え抜きながらも、抜群の推進力を進めていかれるところは流石で、当事業に関わることが出来て私自身貴重な機会を頂きました。

最後に、様々な形で関わって頂いた全ての皆様本当にありがとうございます。引き続き、精一杯取り組んで参ります。今後ともよろしくお願いたします。





シャワーウォーク

